

2012 年度理事会議事録

日 時: 2012 年 9 月 21 日(金) 午後 15 時 00 分～
17 時 00 分

場 所: 北星学園大学第 2 研究棟地下第 1 会議室
理 事: 藤田圭一理事長, 谷口泰富副理事長, い
とうたけひこ, 井上孝代, 浮谷秀一, 白
井伸之介, 尾入正哲, 角山 剛, 軽部幸
浩, 川名好裕, 川本利恵子, 北川公路,
木村友昭, 桐生正幸, 久我隆一, 楠本恭
久, 小嶋正敏, 齊藤 勇, 大坊郁夫, 田
之内厚三, 内藤哲雄, 濱 保久, 深澤伸
幸, 藤森立男, 細江達郎, 松田浩平, 向
井希宏, 森下高治, 森田敏子, 森脇保
彦, 蓮花一己(以上 32 名)

監 事: 沢宮容子, 高橋良博

名誉会員: 山岡 淳

事 務 局: 齋藤雅英(事務局長), 宇部弘子, 本間
悠也(幹事)

1. 理事長挨拶(藤田理事長)

- ・本理事会に出席された先生に対して, 感謝の言葉が述べられた。
- ・名誉会員であられる菊池哲彦先生, 森 重敏先生がご逝去された件について, 哀悼の意が捧げられた。

2. 前理事長挨拶(森下前理事長)

- ・本理事会に出席された先生に対して, 感謝の言葉が述べられた。
- ・理事長在任中における先生方のご支援について, 感謝の言葉が述べられた。
- ・「日本応用心理学会の更なる発展を考える会」のプロジェクトの実行について, 今後も積極的に推進していくことが述べられた。

3. 第 79 回大会委員長挨拶(濱大会委員長)

- ・本大会を開催するにあたり, 先生方に対して感謝の言葉が述べられた。

4. 報告事項

(1) 事業報告

- 1) 会員の異動および会費納入状況(齋藤事務局長)
- ・会員数は, 2012 年 9 月 10 日現在で, 昨年の大
会から 49 名増加した。

- ・2012 年度の会費納入率は 2012 年 9 月 10 日現在 69%である。

- ・2012 年 9 月 10 日現在の会員数は 1,192 名である。

2) 委員会報告

①機関誌編集委員会(深澤委員長)

- ・2012 年度より『応用心理学研究』については年間 3 号の発行とした。
- ・3 号のうち 1 号は, 「特集号」として扱うことにした。
- ・平成 25 年度から導入される電子査読システムの概要が説明された。
- ・論文の投稿先は, 本年 9 月より東京富士大学から国際文献社に変更となった。

②企画委員会(藤森委員長)

- ・平成 23 年度の活動報告の概要が述べられた。
- ・今大会の研修内容について紹介がなされた。
- ・今年度の公開シンポジウムについて説明がなされた。スポーツ関係で企画をしているが, 詳細は未定である。

③広報委員会(浮谷委員長)

a. 年度の事業報告

- ・『応用心理学のクロスロード』(Vol. 4) が 2011 年 12 月に発刊された。
- ・ホームページのサーバーが国立情報学研究所の取り扱い中止に伴い民間のサーバーに移転した。
- ・メールニュースの配信を始めた。

b. 今年度の事業計画

- ・『応用心理学のクロスロード』(Vol. 5) の発刊を準備している(2012 年 12 月発行予定)。
- ・今後, 『応用心理学のクロスロード』は年間 1 回の発行とする。
- ・本学会をより知っていただくため, ホームページのトップページのデザインを逐次更新していく。
- ・メールニュースを逐次配信していく。

④「応用心理士」認定審査委員会(内藤委員長)

- ・2012 年度前期は 3 名の申請があり, 審査の結果 3 名を「応用心理士」として認定した。
- ・「応用心理士会」の発足を計画している。

⑤国際交流委員会(蓮花委員長)

- ・『応用心理学研究』(英文特集号)について,

投稿論文の中で 21 編の論文が採択され、8 月下旬に国際文献社での印刷の段階にはいった。原著 6 編、資料 8 編、短報 7 編であった。

- ・第 28 回国際応用心理学会 (ICAP2014) が 2014 年にフランスのパリにて開催される。現在 2 号通信が学会サイトにアップされている。

⑥若手研究者支援委員会 (向井委員長)

- ・今後、学会活性化委員会、企画委員会と連動をしながら若手の支援を考えていくことになった。

⑦学会賞選考委員会 (優秀大会発表賞を含む) (川本委員長)

- ・昨年度は 2 編の学会賞、5 編の優秀大会発表賞を決定した。
- ・今年度以降も、優秀大会発表賞を継続する予定である。

⑧学会活性化委員会 (大坊委員長)

- ・今後、委員会委員以外にも会員の意見も伺いながら、さまざまなアイデアを企画・検討していく。検討したアイデアを常任理事会において審議していただく。

⑨倫理委員会 (谷口委員長)

- ・電子査読システムの導入に伴って、倫理規程の見直し、改訂を検討している。

(2) 役員選挙結果報告 (浮谷委員長)

- ・平成 23 年 11 月 23 日(水) に理事選挙の開票を行った。当選者に就任意思を確認し、理事 27 名と監事 2 名を決定した。
- ・平成 23 年 12 月 11 日(日) の常任理事会において開票結果を報告し、推薦理事 9 名を決定した。そして推薦理事について就任意思を確認し、9 名を決定した。
- ・平成 24 年 1 月 23 日(月) 理事 36 名に常任理事の投票用紙を送付し、開票作業を平成 24 年 2 月 13 日(月) に行った。その後、当選者に就任意思を確認し、常任理事 9 名を決定した。
- ・平成 24 年 3 月 4 日(日) 常任理事 9 名が日本体育大学中会議室に集まり、投票による理事長・副理事長選挙を行った。

(3) 2011 年度第 78 回大会報告 (内藤委員長)

- ・学内の会員がいなかったことから、学内他教員の協力を経ての開催となった。資料に基づき大会の決算が報告された。また、大会運営費の残金を学会の若手支援に寄付したいとの申し

出があり、常任理事会で承認された。

(4) 日本心理学諸学会連合 (心理学検定を含む)

①日本心理学諸学会連合について (藤田理事長)

- ・心理師の国家資格に向けて、現在、大学院のカリキュラムを検討中である。

②心理学検定について (大坊担当常任理事)

- ・今年度の心理学検定は 8 月 26 日(日) に行われた。受験者数は、2,990 名あった。毎年 500 人ほど受験者数が増えている。団体受験する場合は、受験料が減免される。今後もさらなる受験者数を確保するための検討をしている。

(5) 東日本大震災支援報告 (藤田理事長)

- ・審査委員会の答申を経て、3 件の申請に対して総額 35 万円を助成することが決定した。

(6) 特別委員会報告 (藤田理事長)

- ・投稿論文の審査が遅れたことからクレームが入った。
- ・上記の件に対して、特別委員会を発足し善後策を検討した。

(7) その他

- ・年次大会の 80 回を記念して学会企画の書籍 (全 7 巻: 学校, 犯罪, メディア, 恋愛, 高齢社会, 健康, 産業) の発行 (福村出版) を予定している。

5. 審議事項

(1) 2011 年度決算に関する件 (浮谷前事務局長)

- ・決算書に基づいて説明があった。
- ・監事による監査報告があった。

(2) 2012 年度予算に関する件 (齋藤事務局長)

- ・予算案に基づいて説明があった。
- ・英文特集号積立金を取崩し、100 万円が計上されている。
- ・電子投稿査読システムの導入準備のために、20 万円計上した。
- ・「応用心理士」の資格申請書類の作成・発送を 3 年おきにしていたが、費用を抑えるため、今後は実施せず、メールニュースやホームページで広報をしていく。

(3) 会則改正に関する件 (藤田理事長)

- ・日本応用心理学会会則および日本応用心理学会学会賞規程、日本応用心理学会学会賞選考細則の改訂が提案された。改訂部分は以下のとおりであり、審議を経て承認された。また、

会則の「附則」の標記を「付則」で統一することが検討された。

[日本応用心理学会会則]

- ①第8条(事務局長):「3 事務局長は第7条の規程にかかわらず、その在任中は常任理事に就任する。」を削除する。
- ②第12条(大会):「3 大会委員長は第7条の規程にかかわらず、その在任中は常任理事に就任する。」を削除する。
- ③第12条(大会):「4」を「3」と改正する。
- ④付則6:「6 本会則は平成24年9月22日より改正施行する。」と改正する。

[日本応用心理学会学会賞規程]

- ①第2条:「学会賞は、論文部門と実践活動部門からなり、応用心理学の研究および実践に特に貢献した会員に授与する。」を「学会賞は、論文賞と奨励賞からなり、応用心理学の研究および実践に特に貢献した会員に授与する。」に改訂する。
- ②第3条:「学会賞の論文部門は、本学会機関誌『応用心理学研究』所載の論文を対象とし、実践活動部門は、応用心理学の知見を生かした社会的実践活動を行っている会員を対象とする。」を「学会賞は、本学会機関誌『応用心理学研究』所載の論文を対象とする。」に改訂する。
- ③第4条:「学会賞の授与は隔年とする」を削除する。
- ④第5条:第5条を第4条と改正し、「学会賞選考のために学会賞選考委員会(以下、委員会という)を当該年度に設置する。」の「当該年度」を削除する。
- ⑤第5条:「2 委員の定数は7名を上限とし、任期は当該年度末までとする。」を「委員の定数は7名とし、任期は3年間とする。」に改訂する。
- ⑥第5条:「3 委員長は副理事長とする。」を「3 委員長は常任理事の中から選出する。」に改訂する。

- ⑦第6条:第6条を第5条と改正する。
- ⑧第7条:第7条を第6条と改正する。
- ⑨付則2:「2 本規程は平成24年4月1日より改正施行する。」と改正する。

[日本応用心理学会学会賞選考細則]

- ①第1条:「2 論文部門の選考は過去2年間の

本学会機関誌『応用心理学研究』所載の論文を対象とする。」を「2 学会賞の選考は前年度1年間の本学会機関誌『応用心理学研究』所載の論文を対象とし、論文賞は原著論文から、また奨励賞は原著論文以外の論文から選考するものとする。」に改訂する。

- ②第2条:「2 理事による推薦は論文部門および実践活動部門の各部門につき2件以内とし、候補者氏名、当該業績、推薦理由、推薦人氏名を明記するものとする。」を「2 理事による推薦は論文賞および奨励賞とも2件以内とし、候補者氏名、推薦論文名、推薦理由、推薦人氏名を明記するものとする。」に改訂する。

(4) 名誉会員掲載に関する件(藤田理事長)

- ・荻野七重先生・玉井 寛先生の2名を名誉会員として総会に推戴することになった。
- ・今後、名誉会員の推戴・承認・授賞の手続きについて、常任理事会で検討する。

(5) 2014年度第81回大会委員長(大会当番機関)に関する件(藤田理事長)

- ・向井希宏先生(中京大学)に大会委員長を依頼することが提案され承認された。その後理事会の先生に対して挨拶の言葉が述べられた。

6. 2013年度第80回大会委員長挨拶(藤田大会委員長)

- ・藤田大会委員長より、理事会の先生に対して、第80回大会の概要と挨拶の言葉が述べられた。

2012年度総会議事録

日 時: 2012年9月22日(土) 午前11時45分～
午後12時50分

場 所: 北星学園大学 A 館 5 階 503 教室

進 行: 齋藤雅英事務局長

- 1. 理事長挨拶(藤田圭一理事長)
- 2. 第79回大会委員長挨拶(濱保久大会委員長)
- 3. 議長選出
 - ・大会委員長である濱大会委員長が選出された。
- 4. 報告事項
 - (1) 事業報告
 - 1) 会員の異動および会費納入状況(齋藤事務局長)
 - ・会員数は、2012年9月10日現在で、昨年の大会から49名増加した。

- ・2012年度の会費納入率は2012年9月10日現在69%である。

- ・2012年9月10日現在の会員数は1,192名である。

2) 委員会報告

①機関誌編集委員会（深澤委員長）

- ・2012年度より『応用心理学研究』については年間3号の発行とした。

- ・3号のうち1号は、「特集号」として扱うことにした。

- ・平成25年度から導入される電子査読システムの概要が説明された。

- ・論文の投稿先は、本年9月より東京富士大学から国際文献社に変更となった。

②企画委員会（藤森委員長）

- ・平成23年度の活動報告の概要が述べられた。

- ・今大会の研修内容について紹介がなされた。

- ・今年度の公開シンポジウムについて説明がなされた。スポーツ関係で企画をしている。

③広報委員会（浮谷委員長）

a. 年度の事業報告

- ・『応用心理学のクロスロード』（Vol. 4）が2011年12月に発刊された。

- ・ホームページのサーバーが国立情報学研究所の取り扱い中止に伴い民間のサーバーに移転した。

- ・メールニュースの配信を始めた。

b. 今年度の事業計画

- ・『応用心理学のクロスロード』（Vol. 5）の発刊を準備している（2012年12月発行予定）。

- ・今後、『応用心理学のクロスロード』は年間1回の発行とする。

- ・本学会をより知っていただくため、ホームページのトップページのデザインを逐次更新していく。

- ・メールニュースを逐次配信していく。

④「応用心理士」認定審査委員会（内藤委員長）

- ・2012年度前期は3名の申請があり、審査の結果3名を「応用心理士」として認定した。

- ・「応用心理士会」の発足を計画している。

⑤国際交流委員会（蓮花委員長）

- ・『応用心理学研究』（英文特集号）について、投稿論文の中で21編の論文が採択され、8月

下旬に国際文献社での印刷の段階にはいった。

原著6編、資料8編、短報7編であった。

- ・第28回国際応用心理学会（ICAP2014）が2014年にフランスのパリにて開催される。現在2号通信が学会サイトにアップされている。

⑥若手研究者支援委員会（向井委員長）

- ・今後、学会活性化委員会、企画委員会と連動をしながら若手の支援を考えていくことになった。

⑦学会賞選考委員会（優秀大会発表賞を含む）（川本委員長）

- ・昨年度は2編の学会賞、5編の優秀大会発表賞を決定した。

- ・今年度以降も、優秀大会発表賞を継続する予定である。

⑧学会活性化委員会（大坊委員長）

- ・今後、委員会委員以外にも会員の意見も伺いながら、さまざまなアイデアを企画・検討していく。検討したアイデアを常任理事会において審議していただく。

⑨倫理委員会（谷口委員長）

- ・電子査読システムの導入に伴って、倫理規程の見直し、改訂を検討している。

(2) 役員選挙結果報告（浮谷委員長）

- ・平成23年11月23日(水)に理事選挙の開票を行った。当選者に就任意思を確認し、理事27名と監事2名を決定した。

- ・平成23年12月11日(日)の常任理事会において開票結果を報告し、推薦理事9名を決定した。そして推薦理事について就任意思を確認し、9名を決定した。

- ・平成24年1月23日(月)理事36名に常任理事の投票用紙を送付し、開票作業を平成24年2月13日(月)に行った。その後、当選者に就任意思を確認し、常任理事9名を決定した。

- ・平成24年3月4日(日)常任理事9名が日本体育大学中会議室に集まり、投票による理事長・副理事長選挙を行った。

(3) 2011年度第78回大会報告（内藤委員長）

- ・学内の会員がいなかったことから、学内他教員の協力を経ての開催となった。資料に基づき大会の決算が報告された。また、大会運営費の残金を学会の若手支援に寄付したいとの申し

出があり、常任理事会および理事会で承認された (p. 320 参照)。

(4) 日本心理学諸学会連合 (心理学検定を含む)

①日本心理学諸学会連合について (藤田理事長)

- ・心理師の国家資格に向けて、現在、大学院のカリキュラムを検討中である。

②心理学検定について (大坊担当常任理事)

- ・今年度の心理学検定は8月26日(日)に行われた。受験者数は、2,990名あった。毎年500人ほど受験者数が増えている。団体受験する場合は、受験料が減免される。今後もさらなる受験者数を確保するための検討をしている。

(5) 東日本大震災支援報告 (藤田理事長)

- ・審査委員会の答申を経て、3件の申請に対して総額35万円を助成することが決定した。

(6) 特別委員会報告 (藤田理事長)

- ・投稿論文の審査が遅れたことからクレームがあったため、特別委員会を発足し善後策を検討した。その結果、審査の遅れをお詫びし、審査者の変更で対応した。さらに、今後の対策として、スムーズに査読が行われるようにするため、次年度から電子投稿システムを導入する。

(7) その他

- ・年次大会の80回を記念して学会企画の書籍 (全7巻: 学校, 犯罪, メディア, 恋愛, 高齢社会, 健康, 産業) の発行 (福村出版) を予定している。

5. 審議事項

(1) 2011年度決算に関する件 (浮谷前事務局長)

- ・2011年度の決算書の説明があり、高橋監事から適正に処理されているとの会計監査報告があり、審議を経て承認された (p. 318 参照)。

(2) 2012年度予算に関する件 (齋藤事務局長)

- ・2012年度の予算案の説明があり、審議を経て承認された (p. 319 参照)。

(3) 会則改正に関する件 (藤田理事長)

- ・日本応用心理学会会則および日本応用心理学会学会賞規程、日本応用心理学会学会賞選考細則の改訂が提案された。改訂部分は以下のとおりであり、審議を経て承認された。また、会則の「附則」の標記を「付則」で統一することが検討された。

[日本応用心理学会会則]

①第8条 (事務局長): 「3 事務局長は第7条の規程にかかわらず、その在任中は常任理事に就任する。」を削除する。

②第12条 (大会): 「3 大会委員長は第7条の規程にかかわらず、その在任中は常任理事に就任する。」を削除する。

③第12条 (大会): 「4」を「3」と改正する。

④付則6: 「6 本会則は平成24年9月22日より改正施行する。」と改正する。

[日本応用心理学会学会賞規程]

①第2条: 「学会賞は、論文部門と実践活動部門からなり、応用心理学の研究および実践に特に貢献した会員に授与する。」を「学会賞は、論文賞と奨励賞からなり、応用心理学の研究および実践に特に貢献した会員に授与する。」に改訂する。

②第3条: 「学会賞の論文部門は、本学会機関誌『応用心理学研究』掲載の論文を対象とし、実践活動部門は、応用心理学の知見を生かした社会的実践活動を行っている会員を対象とする。」を「学会賞は、本学会機関誌『応用心理学研究』掲載の論文を対象とする。」に改訂する。

③第4条: 「学会賞の授与は隔年とする」を削除する。

④第5条: 第5条を第4条と改正し、「学会賞選考のために学会賞選考委員会 (以下、委員会という) を当該年度に設置する。」の「当該年度」を削除する。

⑤第5条: 「2 委員の定数は7名を上限とし、任期は当該年度末までとする。」を「委員の定数は7名とし、任期は3年間とする。」に改訂する。

⑥第5条: 「3 委員長は副理事長とする。」を「3 委員長は常任理事の中から選出する。」に改訂する。

⑦第6条: 第6条を第5条と改正する。

⑧第7条: 第7条を第6条と改正する。

⑨付則2: 「2 本規程は平成24年4月1日より改正施行する。」と改正する。

[日本応用心理学会学会賞選考細則]

①第1条: 「2 論文部門の選考は過去2年間の

本学会機関誌『応用心理学研究』所載の論文を対象とする。」を「2 学会賞の選考は前年度1年間の本学会機関誌『応用心理学研究』所載の論文を対象とし、論文賞は原著論文から、また奨励賞は原著論文以外の論文から選考するものとする。」に改訂する。

- ②第2条:「2 理事による推薦は論文部門および実践活動部門の各部門につき2件以内とし、候補者氏名、当該業績、推薦理由、推薦人氏名を明記するものとする。」を「2 理事による推薦は論文賞および奨励賞とも2件以内とし、候補者氏名、推薦論文名、推薦理由、推薦人氏名を明記するものとする。」に改訂する。

(4) 名誉会員掲載に関する件(藤田理事長)

- ・荻野七重先生・玉井 寛先生の2名を名誉会員として推薦することが提案され、承認された。

(5) 2014年度第81回大会委員長(大会当番機関)に関する件(藤田理事長)

- ・2014年度第81回大会を中京大学(向井希宏大会委員長)で開催されることが提案され、承認された。

6. 議長解任

7. 名誉会員称号証書授与

- ・藤田理事長より、荻野七重先生ならびに玉井寛先生を名誉会員とする称号が授与された。その後、荻野先生、玉井先生からお礼の挨拶があった。

8. 2013年度第80回大会委員長挨拶(藤田大会委員長)

- ・2013年9月14日(土)、15日(日)に日本体育大学(東京世田谷)で開催する。現在、着実に準備を進めている。

2012年度第4回常任理事会: 議事録

日 時: 2012年9月23日(日) 午前11時45分
～13時15分

場 所: 北星学園大学 A 館 7 階 707 教室

出席者: 藤田主一理事長, 谷口泰富副理事長

浮谷秀一, 川本利恵子, 大坊郁夫, 内藤哲雄, 深澤伸幸, 藤森立男, 向井希宏, 蓮花一己, 濱 保久(第79回大会委員長)

事務局: 齋藤雅英(事務局長), 本間悠也(幹事)
(敬称略)

1. 報告事項

1. 理事長より(藤田理事長)

- ・出席された常任理事の先生方に感謝の言葉が述べられた。

2. 各委員会報告

1) 機関誌編集委員会(深澤委員長)

- ・今後の『応用心理学研究』は、投稿論文のみを掲載する学会誌から、投稿論文以外にも社会に発信、発言、行動する学会誌を目指す。
- ・「特集号」に関しては、各分野の責任者の先生を中心に、各分野で抱えているテーマを企画していただく。現段階では、早ければ、第38巻第3号に「看護と心理」に関する特集を掲載する予定である。

2) 企画委員会(藤森委員長)

- ・12月2日(日)の公開シンポジウムをどのように企画していくのかが当面の課題である。
- ・「スポーツの心理」という方向で考えていく予定である。

3) 広報委員会(浮谷委員長)

- ・『応用心理学のクロスロード』(Vol. 5) についての内容を企画・検討している。
- ・facebook(SNS)を用いて日本応用心理学会のサイトを閲覧できるようにしている。アクセス名は、世界中からアクセスをできるように「j-aap 日本応用心理学会」としたい。
- ・アクセス数など、情報の共有については、理事の先生へ定期的に配信することにする。

4) 「応用心理士」認定審査委員会(内藤委員長)

- ・応用心理士会の設置について、実行に移していく予定である。

5) 国際交流委員会(蓮花委員長)

- ・「英文特集号」は印刷を開始しているので、11月～12月頃には発行できる予定である。
- ・第28回国際応用心理学会(ICAP2014)が2014年にフランスのパリで開催されることに伴い、参加者に何らかの補助ができないかを検討する予定である。

6) 若手研究者支援委員会 (向井委員長)

- ・大学院生への補助が浸透し、大学院生の参加者数が増えたため、この制度は軌道にのったものと思われる。

7) 学会賞選考委員会 (川本委員長)

- ・次回の常任理事会までに、論文賞、奨励賞に投票する用紙を作成する予定である。
- ・優秀大会発表賞の投票について、次回の常任理事会までに集計して検討する予定である。
- ・事前に先生方と表彰人数等を確認する必要がある。

8) 学会活性化委員会 (大坊委員長)

- ・今月中に委員の先生方からご意見をいただき、次回の常任理事会で検討していく予定である。

9) 倫理委員会 (谷口委員長)

- ・倫理委員会の活動方針について、委員の間で検討する予定である。

3. 2012 年度第 79 回大会について (濱大会委員長)

- ・概ねスケジュールどおりに大会を運営している。
- ・大会の当日参加者がやや減少したが、懇親会の参加人数が増えた。学生予約の人数が 1.5 倍ほどに増えた。
- ・『応用心理学のクロスロード』の原稿依頼に関しては、現在執筆中である。

4. 日本心理学諸学会連合について (心理学検定を含む) (藤田理事長)

- ・12 月 23 日に日心連の理事会があるため、新たな進展が予想される。
- ・心理学検定について、大坊委員から本年度の検定終了とその後の処理について報告があった。

5. その他

II. 審議事項

1. 新入会員審査および会員異動に関する件

- ・下記 6 名の新入会者の申し込みがあり、審議の結果すべてが承認された (敬称略)。
菅 礼子, 辻 真弓, 椎葉美千代, 朴 喜静, 津田博子, 深澤孝行
退会者は以下のとおりである (敬称略)。
森 重敏 (ご逝去), 田島 祥, 佐脇亜依

※次回の常任理事会は 12 月 2 日 (日) の公開シンポジウムの前に開催する予定である。

2012 年度第 5 回常任理事会：議事録

日 時: 2012 年 12 月 2 日 (日) 11 時 00 分～12 時 50 分

場 所: 日本体育大学中会議室

出席者: 藤田主一理事長, 谷口泰富副理事長
浮谷秀一, 川本利恵子, 深澤伸幸, 藤森立男, 向井希宏, 齊藤 勇, 大坊郁夫, 内藤哲雄, 蓮花一己

事務局: 齋藤雅英 (事務局長), 宇部弘子 (幹事), 鈴木悠介 (幹事) (敬称略)

I. 報告事項

1. 理事長の挨拶 (藤田理事長)

- ・常任理事の先生方へ感謝の言葉が述べられた。

2. 各委員会報告

1) 機関誌編集委員会 (深澤委員長)

- ・第 38 巻第 2 号については印刷が終了し、発送を待っている状態である。また英文特集号については校正の完了を待ち、12 月の中旬に発送予定である。さらに第 3 号も編集が進んでいる。現在、査読中の論文は 15 本、審査終了が 3 本である。
- ・電子査読システムが来年 4 月から運用開始予定である。12 月中にホームページにアップできるように準備中である。契約書 (案) が国際文献から届き、内容についての検討を行い契約に向けて進んでいる。常任理事には、システムの不備の検証に協力をお願いする。

2) 企画委員会 (藤森委員長)

- ・本日、「トップアスリート役立つメンタル・マネジメント」というテーマで日本体育大学記念講堂にて公開シンポジウムを開催する。
- ・平成 25 年度の学会研修について、研修 A: 学習院大学名誉教授の永田良昭先生, 研修 B: リクルートマネジメントソリューションズ組織行動研究所主任研究員の今城志保先生に決定した。

3) 広報委員会 (浮谷委員長)

- ・『応用心理学のクロスロード』(Vol. 5) の中に理事長と名誉会員の座談会を取り上げた。

- ・全体の進捗状況の説明があった。年内の発行を予定している。
- 4) 「応用心理士」認定審査委員会(内藤委員長)
 - ・今後、資格申請のための申請冊子を刷新する予定である。
- 5) 国際交流委員会(蓮花委員長)
 - ・「英文特集号」については年内に完成予定である。
 - ・国際応用心理学会での企画について検討を行っている。
 - ・若手研究者支援委員会と連携をして、研究費や海外学会発表補助など他学会が行っている一般的なものの以外に、日本応用心理学会ならではのものを検討していきたい。
- 6) 若手研究者支援委員会(向井委員長)
 - ・現行実施していることを中心に活動をしていく予定である。
 - ・今後、有効な運用の一つとして国際応用心理学会での支援について検討を行う。
- 7) 学会賞選考委員会(川本委員長)
 - ・優秀大会発表賞についての選考が行われ、7件の発表が推薦され承認された。
- (1) 小野洋平(駒澤大学)ほか: 虚偽検出に関する基礎的研究—刺激の有意性・有用性と眼球運動—
- (2) 谷本郁子(関西国際大学大学院)ほか: ボンド理論における4要素の検討—犯罪心理学の観点からの再構築—
- (3) 岡本 悠(明治学院大学大学院) 大学生の友人関係における対人葛藤の終結までのプロセス—複線経路・等至性モデル(TEM)に基づいて—
- (4) 川本利恵子(九州大学大学院)ほか: 情報化社会が看護実践力およびコミュニケーションに及ぼす影響
- (5) 上出寛子(大阪大学大学院): ヒューマノイドの認知された安心感—性別と年齢の影響—
- (6) 蓮花のぞみ(神戸大学大学院, 大阪大学大学院): 高齢ドライバーの自己評価と運転補償方略の関係
- (7) 伍井和夫(東洋電機製造): 内部監査人が企業不祥事を発見する認知能力—内部監査

人を見守る科学のまなざし—

- 8) 学会活性化委員会(大坊委員長)
 - ・次回の常任理事会で報告予定である。
- 9) 倫理委員会(谷口委員長)
 - ・次回の常任理事会で報告予定である。
- 3. 2013 年度第 80 回大会について(藤田大会委員長)
 - ・大会実行委員会で検討の結果、大会の名称を「第 80 回記念大会」とすることに決定した旨の報告があった。
 - ・2月にHP上で閲覧できるよう進め、大会通信等については3月に発送予定である。
 - ・現在、公開記念シンポジウムを企画している。
 - ・日本スポーツ心理学会が2013年11月1日~3日に日体大で開催される旨の案内があった。
- 4. 日本心理学諸学会連合について(齊藤担当常任理事, 大坊心理学検定運営委員)
 - ・日本応用心理学会として、心理学検定運営委員に大坊常任理事を任命した。任期は3年間である。
 - ・受検者は着実に増加している。特1級が新設されたので、全科目制覇を目指し増加している。
 - ・心理学検定のイメージキャラクターは近日発表予定である。
- II. 審議事項
 - 1. 新入会審査および会員異動に関する件(齊藤事務局長)
 - ・新入会員の審査により森田亜矢子氏・益川満治氏の2名が承認された。
 - 2. 会則変更について(齊藤事務局長)
 - ・日本応用心理学会会則(以下会則)と日本応用心理学会役員選出・選挙規程(以下規程)において、会則第6条「副理事長の選出」と規程第8条「副理事長の選出」の文言に齟齬があるため、統一をする必要がある。審議の結果、会則は変更せず、規程第8条を「副理事長は、常任理事の中から理事長が推薦し、新常任理事会の承認を得るものとする。」に変更することが承認された。
 - ・国際文献印刷社が国際文献社に社名が変更され、また住所が変更されたことから、今後、同種の変更事項については事務局が総会を待

たずに文言を変更してかまわないことが承認された。

後2時から日本体育大学にて開催する予定である。

※次回の常任理事会は、2013年3月3日(日) 午

日本応用心理学会 2011 年度決算書

(2011 年 4 月 1 日～2012 年 3 月 31 日)

収 入			支 出		
項 目	決算額	予算額	項 目	決算額	予算額
会費	5,955,000	6,210,000	第 78 回大会補助費	700,000	700,000
過年度分* (58 名)	348,000	600,000	学会賞	0	0
*学生会員, 賛助会員 1 名を含む			心理学諸学会連合会費	60,000	60,000
本年度分** (936 名)	5,607,000	5,610,000	シンポジウム・講演費謝金	84,965	200,000
**学生会員 4 名含む			研修会講師謝金	60,000	60,000
賛助会費 (過年度分を含む)	30,000	30,000	国際交流費	0	100,000
「応用心理士」関係	190,000	400,000	英文特集号関係諸費	0	0
審査料	40,000	100,000	「応用心理士」関係経費	28,040	50,000
認定料	150,000	300,000	委員会活動費	539,622	950,000
機関誌売り上げ	465,560	300,000	機関誌編集委員会	115,160	300,000
(定期購読・バックナンバー)			企画委員会	245,359	300,000
雑収入 (クロスロード広告料, 利子)	228,971	50,000	広報委員会	85,749	150,000
前年度繰越金	1,184,578	1,184,578	国際交流委員会	70,080	50,000
東日本大震災助成活動のための募金	75,000	—	若手研究者支援委員会	0	50,000
特別企画積立金取崩	500,000	500,000	学会賞選考委員会	26,274	50,000
			倫理委員会	0	50,000
			印刷費	2,204,680	2,500,000
			機関誌	1,141,353	1,500,000
			広報関係	900,000	900,000
			その他	163,327	100,000
			通信費	611,273	550,000
			機関誌郵送費	164,095	150,000
			広報関係郵送費	247,408	250,000
			その他	199,770	150,000
			常任理事交通費	896,660	900,000
			事務局運営費	200,795	200,000
			事務局委託費	724,291	800,000
			英文特集号積立金	500,000	500,000
			選挙関連費用	548,378	500,000
			特別企画積立金	0	0
			東日本大震災助成金	350,000	—
			予備費 (名簿未払い分)	97,332	604,578
			次年度繰越金	1,023,073	—
合 計	8,629,109	8,674,578	合 計	8,629,109	8,674,578

*HP 製作費 (58,932 円), 学会企画書籍費 (38,400 円)

《別途会計》

1. 名簿作成積立金

2010 年度繰越金	3,000,000
2011 年度取崩 (清算)	— 500,000
	2,500,000

2. 若手育成基金

2010 年度繰越金	1,733,506
第 78 回大会より寄付金	535,486
2011 年度支援金	— 113,000
	2,155,992

3. 英文特集号作成積立金

2011 年度積立金	500,000
	500,000

以上の通り相違ありません。

平成 24 年 9 月 13 日
平成 24 年 9 月 14 日監事 高橋 良博 ㊟
監事 手島 茂樹 ㊟

日本応用心理学会 2012 年度予算案

(2012 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日)

収 入				支 出		
項 目	予算額		前年度決算額	項 目	予算額	前年度決算額
会費	6,060,000		5,955,000	第 79 回大会補助費	700,000	700,000
過年度分	480,000	80 名	348,000	学会賞	60,000	0
本年度分	5,580,000	930 名	5,607,000	心理学諸学会連合会費	60,000	60,000
賛助会費	30,000		30,000	シンポジウム・講演費謝金	200,000	84,965
「応用心理士」関係	600,000		190,000	研修会講師謝金	60,000	60,000
審査料	150,000		40,000	英文特集号関係諸費	1,000,000	0
認定料	450,000		150,000	「応用心理士」関係経費	—	28,040
その他	0		0	委員会活動費	950,000	539,622
機関誌売り上げ	450,000		465,560	機関誌編集委員会	200,000	115,160
雑収入	100,000		228,971	企画委員会	200,000	245,359
前年度繰越金	1,023,073		1,184,578	広報委員会	100,000	82,749
東日本大震災募金額	—		75,000	「応用心理士」認定審査委員会	150,000	—
特別企画積立金取崩金	0		500,000	国際交流委員会	100,000	70,080
英文特集号作成積立金取崩金	1,000,000		—	若手研究者支援委員会	50,000	0
				学会賞選考委員会	50,000	26,274
				学会活性化委員会	50,000	0
				倫理委員会	50,000	0
				印刷費	2,650,000	2,204,680
				機関誌	2,000,000	1,141,353
				広報関係	450,000	900,000
				その他	200,000	163,327
				通信費	630,000	611,273
				機関誌郵送費	300,000	164,095
				広報関係郵送費	130,000	247,408
				その他	200,000	199,770
				常任理事交通費	900,000	896,660
				事務局運営費	200,000	200,795
				事務局委託費	700,000	724,291
				英文特集号積立金	500,000	500,000
				選挙関連費用	—	548,378
				特別企画積立金	0	0
				機関誌電子投稿システム費	200,000	—
				東日本大震災助成金	—	350,000
				予備費	453,073	97,332
				次年度繰越金	—	1,023,073
小 計	9,263,073		8,629,109	小 計	9,263,073	8,629,109

《別途会計》

1. 特別企画積立金

2011 年度繰越金	2,500,000
2012 年度取崩金	0
	2,500,000

2. 若手育成基金

2010 年度繰越金	2,155,992
2011 年度支援金	—114,000
	2,041,992

3. 英文特集号作成積立金

2011 年度繰越金	500,000
2012 年度積立金	500,000
2011 年度取崩金	—1,000,000
	0

日本応用心理学会第 78 回大会決算報告書

収入					支出		
摘要				金額	摘要		金額
大会参加費 (内訳)	正会員	予約	5,000	158	790,000	学会事務委託費 (内訳)	1,699,880
	正会員	当日	6,000	36	216,000	システム関連費	
	院生	予約	2,000	42	84,000	大会論文集印刷費	
	院生	当日	3,000	6	18,000	大会プログラム印刷費	
	非会員	予約	6,000	24	144,000		
	非会員	当日	7,000	27	189,000	講師謝礼	190,000
	非会員（学生）	予約	3,000	2	6,000	学生協力謝礼	532,000
	非会員（学生）	当日	3,500	9	31,500	大会事務局事務員謝礼	280,000
発表費 (内訳)	正会員・名誉		5,000	137	685,000	大会委員会運営費	232,800
	院生		3,000	24	72,000	理事会費	168,000
	非会員		10,000	25	250,000	懇親会費	510,500
	非会員学生		8,000	1	8,000	総会費（弁当代）	194,250
自主ワークショップ (内訳)	正会員		5,000	7	35,000	昼食代（2日目）	50,000
	院生		3,000	2	6,000	パネルリース費	128,000
論文集代 (内訳)	予約		5,000	26	130,000	消耗品費	100,029
	当日		6,000	22	132,000	大会当日移動費	1,780
懇親会費 (内訳)	正会員（予約）		7,000	51	357,000	郵送料・手数料	3,275
	正会員（当日）		8,000	22	176,000	寄付（学会・若手研究者支援）	535,486
	院生（予約）		3,000	12	36,000		
	院生（当日）		4,000	14	56,000		
	同伴者		5,000	4	20,000		
研修会費 (内訳)	正会員（予約）		500	33	16,500		
	正会員（当日）		1,000	4	4,000		
	非会員		1,500	0	0		
弁当代（2日目：個人購入分）			1,000	6	6,000		
広告費					180,000		
若手研究者支援			3,000	10	30,000		
補助費							
優秀大会発表賞					24,000		
懇親会補助費							
大会補助費					700,000		
理事懇親会補助					100,000		
寄付					124,000		
合計					4,626,000	合計	4,626,000

以上の通り相違ありません。

平成 24 年 11 月 1 日

監査 内藤哲雄 ㊞